

63人が履修証明書を受け取る

明治大学
新宮市など

外国人向け観光ガイド育成

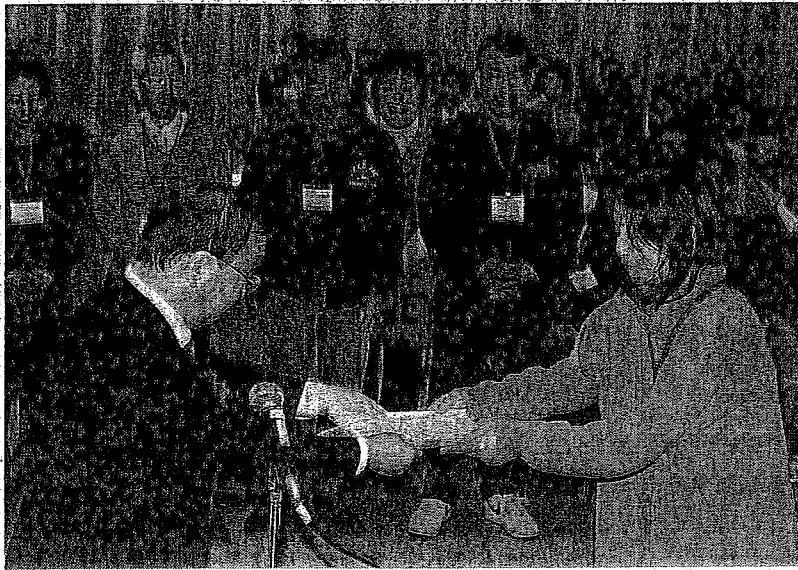
明治大学と新宮市など熊野地域の自治体が連携して昨年6月から開いていた「外国人向け観光ガイドの育成プロジェクト」の履修証明書授与式が21日、新宮地域職業訓練センターで行われ、受講した106人のうち80代を筆頭に20代までの計63人（和歌山市、三重県紀伊長島町）が履修証明書を受け取った。

このプログラムは、文部科学省の委託事業として明治大学が自治体と連携して行っている。平成20年度は新宮市など熊野地域で観光活性化に貢献できる人材の育成を目的に、昨年6月から今年1月まで全20講義を開催した。

授与式で、同大の吉田悦志副学長は「きまようの

修了式はスタートライン。これから学ばれた実績をフィールドで生かしてほしい」と、佐藤春陽新宮市長は「本年は世界遺産登録5周年。さまざまなイベントを企画しているのでみなさんには知識、経験を十分に発揮していただければと期待した。

履修証明書の授与は、出席回数が16回以上であ



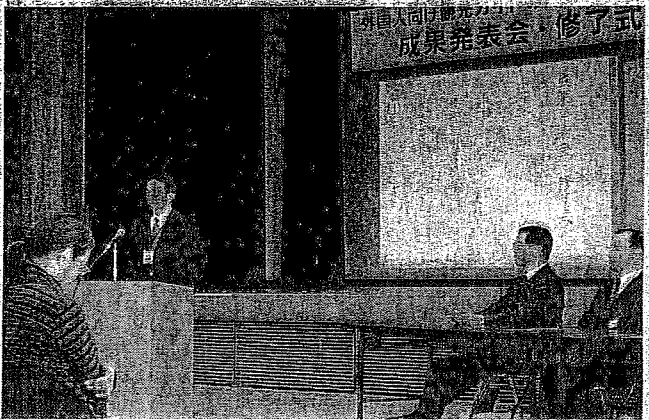
吉田明大副学長から履修証明書を受け取る修了者(写真右)

ることや第4段階の英語観光マップ作成とガイド模擬体験に参加したことなどの条件を基に総合評価。この条件をクリアした63人（男性26人、女性37人）に履修証明書が手渡された。

続いて、全講義を受講した21人の中から5人が

成果発表し、「学んだことを生かす、この地域のすてきなところを多くの人に伝えるために、たくさんの方にガイドできることを楽しみにしている」などと抱負を述べた。

修了者の受け入れ態勢については、いまのところ新宮市には組織団体がないので、田辺市にあるNPO法人（特定非営利団体）Mi・kuman o（み・くまの）の紹介があった。



受講の感想や今後の抱負など成果発表

閉会あいさつで、プログラム実行委員長の崎章浩明治大学経営学部教授が「来年度も継続できる方向で、新宮市が前向きに検討しているところとです。2年後、3年後に外国人観光客を案内し

ている姿を拝見できることを楽しみにしています」と話した。